

# 動詞重疊型に関する通時的研究 (十一)

## ——《二拍》を中心に——

大島 吉郎

### A Diachronic Study of the V - V Form (XI)

Yoshiro Oshima

**提 要：**本文拟对明末凌濛初编著的短篇小说集《初刻拍案惊奇》40卷与《二刻拍案惊奇》40卷，分别描写动词重叠式的分布情况，并且指出在汉语史上一些值得注目的有关宾语语序问题，进一步指出在《初刻》与《二刻》之间存在的几个不同点。

**关键词：**《二拍》 动词重叠 宾语语序 历史演变

#### [目 次]

- 0 はじめに
- 1 単音節語
  - 1. 1 V V
  - 1. 2 V V 儿
  - 1. 3 V V R
  - 1. 4 V V 过
  - 1. 5 V 了 V
  - 1. 6 V O V
  - 1. 7 V V O
  - 1. 8 把 (将) O V V
  - 1. 9 V - V
  - 1. 10 V - V R
  - 1. 11 V - V 过
  - 1. 12 V - V 开
  - 1. 13 V 了 - V
  - 1. 14 V - V O
  - 1. 15 V 了 - V O
  - 1. 16 把 (将) O V - V

1. 17 VO-V
  1. 18 V了O-V
  - 2 二音節語
  - 2 1 VV
  - 2 2 VOV
  - 2 3 V-V
  - 2 4 VO-V
  - 3 嘗試型
  - 3 1 VV看
  - 3 2 VVO看
  - 3 3 V-V看
  - 3 4 試V-V看
  - 3 5 V-VO看
  - 3 6 VO-V看
  - 4 おわりに
- 参考文献

## 0 はじめに

《二拍》は、明末における短編小説集の白眉である《三言》と並び称され、広く「三言二拍」と総称される。《二拍》そのものは《初刻拍案驚奇》、《二刻拍案驚奇》を指し、ともに凌濛初<sup>1</sup>の撰に掛かるとされる<sup>2</sup>。各40巻から成るが、《二刻拍案驚奇》第40巻は《宋公明鬧元宵雜劇》と題する雜劇の台本が配されており、唯一この巻だけ体裁を異にする。第23巻《大姊魂游完宿願 小姨病起續前縁》についても、欠を補うために《初刻拍案驚奇》から移入されたものであると考えられている<sup>3</sup>。

管見の及ぶ限り、個別の表現型式についての言及はあるものの<sup>4</sup>、《二拍》を対象として動詞重畳型に関する体系的記述を行った研究は未だ見られない<sup>5</sup>。

<sup>1</sup> 王国維の考察に拠れば、字は玄房、号は初成、浙江烏程の人。明万曆8(1580)年生、明崇禎17(1644)年卒(李田意輯校《二刻拍案驚奇》下巻「重印二刻拍案驚奇原刊本序」参照)。

<sup>2</sup> 李田意1980は、「在冯氏的《三言》里，虽然不免也有冯氏自己的创作，可是大部分还是宋、元以来的旧本。在凌氏的《二拍》里，情形就不同了。虽然偶而有改订旧本的现象，但是十之九八都是凌氏自己的创作。因此，我们大体上可以说《三言》乃是各家所作的話本总集，而《二拍》则是凌氏自著的話本专集。」と指摘する。

<sup>3</sup> 李田意1980、章培恒1985b参照。

<sup>4</sup> 例えば崔山佳2011。

<sup>5</sup> 宮田一郎1970は賓語の位置という観点から動詞重畳型の通時的特長を精緻に叙述し、変化の方向性を理論化するが、《二拍》については言語資料として取り上げていない。

小稿は「崇禎戊辰<sup>6</sup> 初冬即空觀主人識」尚友堂刊《拍案驚奇》、「崇禎壬申<sup>7</sup> 冬日即空觀主人題」《二刻拍案驚奇》を底本とする、

李田意輯校《拍案驚奇》、香港友聯出版社 1967 年出版、1986 年第 4 版

李田意輯校《二刻拍案驚奇》、香港友聯出版社 1980 年出版、1985 年再版

をテキストに用い、《二拍》に見られる動詞重疊型についての基本的記述を行うとともに、その通時的变化の過程における特徴的事例について指摘を行うものである<sup>8</sup>。

《初刻拍案驚奇》(以下《初》と略称)、《二刻拍案驚奇》(以下《二》と略称)における動詞重疊型式の相違点は、以下の〔表 1〕によって大よその姿を捉えることが出来る。単音節語では、<V V>型に比して<V-V>型に見られるバリエーションが多様であり、用例数の点からは、《二》に用例の多いことが指摘されよう。“了”のバリエーションとして“得”が現れ、方向補語“上”の例も見られる。二音節語では全体的に《二》の用例数が多い。

〔表 1〕

単音節	型 式	《初》	《二》
	V V	95	82
V V 儿	×	3	
V V 看	6	10	
V V R	1	×	
V V 过	×	1	
V 了 V	×	×	
V O V	×	×	
V V O	36	61	
V V O 看	3	2	
把 (将) O V V	×	5	
V-V	59	86	
V-V 儿	×	×	
V n V	2	×	
V-V 看	5	8	
试 V-V 看	×	1	
V-V R	×	1	
V-V 过	1	×	
V-V 开	×	1	
V 了-V	30	16	
V 得-V	5	1	

  

V 了 n V	13	6
V 得 n V	1	×
V 上 n V	×	1
V-V O	17	45
V-V O 看	×	1
V 了-V O	1	×
V 得-V O	1	×
把 (将) O V-V	6	8
V O-V	15	21
V O-V 看	×	1
V O n V	×	1
V 了 O-V	2	×
V 了 O n V	×	2
把 (将) O V 了-V	6	2
計	305	367

  

二音節	V V	9	4
	V O V	1	1
	V-V	9	22
	V O-V	2	1
計	11	28	

<sup>6</sup> 西暦 1628 年。

<sup>7</sup> 西暦 1632 年。

<sup>8</sup> テキストは繁体字表記であるが、本稿では简体字で統一して表記を行う。

用例数、動詞の種類は《二拍》全体について述べ、《初》、《二》それぞれの状況については必要に応じて記述する。嘗試型については動詞が単音節語のみであるため、別に項を立て、まとめて記述することにした。

## 1 単音節動詞

### 1.1 V V

全177例、動詞の種類は44。

—拜、避、纏、尝、秤、吃、传、到、等、动、翻、跟、烘、见、救、开、看、来、摸、弄、去、认、散、试、耍、睡、说、送、算、听、望、问、笑、掩、用、站、照、住、转、走、坐、做  
用例数の最も多いのは“看”47例であり、それに次ぐのが“走”の38例である。“瞧”は<VV>型には現れて来ない。例えば、

杜氏道：“正是。路上逢雨，借这里避避则个。”（初26,539）<sup>9</sup>

仔细看看，已此无气了。（初17,328）

你既到此地，可要各处看看去么？（初28,582）

院主道：“偶然来来，也不长到。”（初27,565）

主人自别了去，道：“再到小店中去去来。”（初1,26）

对众人道：“我且上岸去岛上望望则个。”（初1,16）

又去一回，那孙子穿了新郎衣服，也说道：“公公宽坐，孙儿也出门望望去。”（初16,311）

那妇人家若是个正气的，由他自说，你只外边站站，等雨过了走路便罢。（初26,540）

罗妈妈道：“正好在小女房里坐坐，吃茶去。”（初29,604）

…，商议道：“我们既是夫妻，也学着他每做做。”（初29,601）

笑道：“只可惜没处得几杯酒吃吃。”（二13,279）

欲要睡睡，又是别人家床铺，不曾睡惯，不得伏贴。（二9,202）

对那哥哥道：“既恁地，便和哥哥同到家去走走来。”（二11,250）

懒龙不慌不忙道：“不劳二位费心，且到店中坐坐细讲。”（二39,820）

《二》に特徴的に見られる事例であるが、<VV><VVO>に“着”を接辞する例が散見される<sup>10</sup>。例えば、

<VV着>

竹林啐了一口道：“有我两人在此，怕怎的？且仔细看看着。”（二13,284）

二女笑道：“不怎的，我们看见问问着。”（二35,724）

<sup>9</sup> 「『初刻拍案惊奇』第26卷、pp539」の略称。以下同様。

<sup>10</sup> 崔山佳(2011)pp269では<V-V看>との関連から、<V-V着>の例について触れ、<VV着>に対する観察も行っているが、どのような意味を表しているのか、結論は示されていない。《二》からは“看看着”の例のみ引いている。語気助詞“则个”（あるいは“…便是”“…何妨”など）との関連性が考えられる所から、“着”は語気助詞であると見做せる可能性も否定できない。

只见店门开着，心里道：“那朝奉好不精细，既要私下做事，门也不掩掩着。”（二 28,598）

<VVO着>

富家子道：“有不是处且慢讲，快与我开开门着。”（二 33,690）

妻子道：“…。你且先去看看柜里着，再来寻秤不迟。”（二 36,741）

对他道：“今后我与某安人合用的了，只这几夜，且让让我着。”（初 34,744）

## 1.2 VV儿

全3例、動詞の種類は2。

—擲、做

《二》にのみ見え、《初》では現れない。用例はいずれも会話文中のものである。例えば、

沈将仕道：“…。设法我也在里头去擲擲儿，也不在了今日来走这一番。”（二 8,179）

…。郑十方才开声道：“容我每也擲擲儿么？”（二 8,179）

瑶月道：“才方是大概说话，我便也要学做做儿的。”（二 34,707）

“做”の重疊型は<VV>に、“擲”は<V-V>に現れるが、用例数は限られており、兒化する動機付けは見出し難い。また、<VV儿>に対応する<V-V儿>は見られず、《二拍》における兒化の例は<VV儿>のみである。

## 1.3 VVR

全1例、動詞の種類は1。補語は“熟”。

—做

動詞重疊型が結果補語を伴う例は<V-V>にも1例見られる。現代漢語では、主に呉語地区を中心とする南方方言において用いられている型式であり<sup>11</sup>、《初》には、<VV>に形容詞“熟”を伴った例が1例見られる。ふとしたことがきっかけで、科挙の試験内容が書かれた手ぬぐいを手に入れたものの、ともに受験する仲間を取り合おうとせず、心中密かに独白する内容を表した文であり、“做做熟”は「未然」で用いられている<sup>12</sup>。例えば、

独有一个姓安的心里道：“便是假的何妨？我们落得做做熟也好。”（初 40,849）（ただ一人安という者だけが「たとえ（そこに書かれていることが）うそだったとしても何の不都合があるか。私たちはこれを機に、繰り返し何度もやってすっかり自分のものにしてしまうのもよからう」と心の中で思った<sup>13</sup>。）

動詞に接辞する結果補語の性質から考えると、“做做”あるいは後述する“洗一洗”は「動詞」としての性質を備えていると見做されるが故に、結果補語を伴った表現が受け入れられていると考

<sup>11</sup> 钱乃荣（1997）pp57「动词重叠带补语」参照。汪国勝・付欣晴 2013 では呉方言、閩方言について言及する。

<sup>12</sup> 汪国勝・付欣晴 2013 によれば、<VV>（この場合“做做”）は“反复进行”の意を表す。

<sup>13</sup> “落得”の意味を巡っては、中華書局 1999《漢語方言大詞典（全五卷）》第四卷 pp5941 に示される釈義①“某事正合自己心意，因而顺其自然。吳語。”に従った。

えられる<sup>14</sup>。

#### 1.4 VV过

全1例、動詞の種類は1。

——躲

“过”は平行移動を表す方向補語であり、表現の根底には、やはり<VV>が一つのまとまりを持つ意味形式であるとの認識が働いていることが見て取れる。例えば、

筑玉道：“这等，姐姐须权躲躲过，待他到我床上，脱衣之后，吹熄了灯，掉了包就是。”（二34,707）（筑玉が「そういうことでしたら、お姉さんは一先ず近くに身を潜めておいて、あの方が牆に上がり、服をお脱ぎになったら灯りを消し、私とすり替われればよろしいではありませんか」と申します<sup>15</sup>。）

#### 1.5 V了V

《初》、《二》ともに<V了V>型は用いられていない。その理由を明らかにする根拠を用例の上からも得ていない。<V了—V>（48例）と対照すれば、表現上での機能分化という観点から説明が可能となるであろう。

#### 1.6 VOV

《初》、《二》ともに<VOV>型は用いられておらず、《二拍》においては<VVO>型に融合していると考えられる。この状況は<VO—V>（35例）と対称を成している。後述するように、二音節動詞では<VOV>型（2例）が用いられていることとの整合性が問題となる。

#### 1.7 VVO

全97例、動詞の種類は44。

——拜、表、擦、查、到、点、调、跌、抖、躲、翻、访、扶、拱、会、记、见、教、解、尽、开、看、摸、拍、遣、让、伸、试、说、算、抬、讨、推、问、相、谢、寻、养、摇、砸、沾、遮、整、坐

用例数が多いのは“看”であり、全16例見られる。

明代の言語資料において、賓語が人称（例えば“老母”“甄监生”“妻子”“姨娘”など）、あるいは人称代詞（例えば“他”“我”“我们”など）であれば<VOV>型を用いると考えられるが、今回の調査では、単音節動詞の場合、いずれも<VVO>型として表されていることが明らかとなった。<VO—V>とは対照的な結果である。賓語が人称代詞であっても<VOV>型を忌避した理

<sup>14</sup> 結果補語が賓語を含む動詞句末尾に置かれる例は《二拍》に見られないことを根拠とする見方である。

<sup>15</sup> 以下、例文訳はすべて筆者による。

由については、改めて考察する必要があるだろう。例えば、

小道人道：“日里人面前对局，我便让让他；…”（二 2,35）

心下吃了一惊道：“…我且把个体面见见他。…”（二 4,85）

小道人道：“…；晚间要他来被窝里对局，他须让让我。”（二 2,36）

贾成之道：“这个姨姨也好笑，这样事何不来问问我们，竟自支分了去？”（二 20,443）

你们如今留心，快与我寻寻人家，差不多的也罢了。（初 24,504）

但直须带了小妾回家安顿，兼就看看老母，再赴吾丈之期，未为迟也。（初 18,367）

去扶扶甄监生时，声息俱无，四肢挺直，但身上还是热的，叫问不应了。（二 18,407）

真珠姬听罢，不胜之喜，便对母亲道：“儿正要见见姨娘，恰好他来相请，…”（二 5,117）

却是金生主意只要安得身牢，寻个空便，见见妻子，剖诉苦情。（二 6,139）

龙香道：“姐姐怕龙香冲撞了他，等龙香去叫他来见见姐姐，姐姐自回他话罢。”（二 9,192）

养娘的父亲就是刘家庄仆，见说此事，急来看看女儿。（二 13,277）

问问家人“何不卖些田来用度”，方知田多没有了。（二 22,492）

金生与翠翠，虽然夫妻相见，说不得一句私房话，只好问问父母安否，…。（二 6,137）

<VOV>は《醒世姻縁傳》には見られるが、《三言》では用例が得られていない<sup>16</sup>。

## 1.8 把(将)OVV

全5例、動詞の種類は5。

——看、说、推、闻、嗅

賓語を介詞“把”“将”により提前する型式も見ら、用例は《二》に集中して用いられている。例えば、

有时接着相投的孤老，也略把这些前因说说，只好感伤流泪，…。（二 38,792）

司法把门推推，推不开来；用手敲着两下，…。（二 10,217）

翰林如痴似醉，把桌上东西这件闻闻，那件嗅嗅，好不伎痒。（二 3,62）

沈一道：“不妨，且将神道昨夜所赐来看看，尽勾受用哩！”（二 36,741）

## 1.9 V-V

全145例、動詞の種類は36。

——摆、抱、避、补、尝、秤、催、带、抖、兑、躲、番、访、拱、勾、回、会、见、接、解、救、看、拉、炼、摸、捏、陪、热、认、赛、试、数、耍、说、送、搜、算、谈、听、突、望、问、想、笑、行、歇、写、用、游、张、整、挪、撞、走、坐、做

動詞のバリエーションが豊富なため、用例数もある特定の動詞に集中しないが、“看”はその中でも28例を占め、“想”が22例とそれに次ぐ。<V一V>がすべて地の文で用いられるのに対し、

<sup>16</sup> 《醒世姻縁傳》のデータについては、大島吉郎（2003）pp210 参照。《三言》のデータは大島吉郎（2006）を参照されたい。

<V-V>は会話文中での使用例が約半数を占める(74例)。例えば、

却又道：“有甚么冤魂在得水家里？可又作怪！且去看一看，怕做甚么！”(初14,279)

寄华跳得下马，一个虚跌，惊将醒来，擦擦眼看一看，仍睡在草铺里面，…。(二19,422)

钱氏说：“…。我领你们去搜一搜去看。”(初31,659)

狄氏道：“这等，你且拿去还他，等我慢慢想一想，有了门路再处。”(初6,115)

一递一句讥消着李三；擲一擲，做一个鬼脸，大家把他来做一个取笑的物事。(二8,178)

…。三人远望道：“好了，好了，且到那里躲一躲则个。”(初12,241)

史、魏两人道：“…。既然两位牌头到此，且请便席略坐一坐，吃三杯了去何如？”(二4,99)

宋喜见了银子，千欢万喜道：“既承盛情，好歹替你回一回去。”(二36,751)

秤过数个都是一般，总数一数，共有一千个差不多。(初1,13)

…。将出来送与小童道：“…。这珠子再烦送一送去，我再附一首诗在内，…”。(二14,308)

郁盛笑容满面道：“请大姐里面坐一坐去。”(二38,784)

又对近侍夸称道：“如此奇异儿子，不可令宫闱中人不见一。”(二5,113)

…。直到上司来时，穿着衣巾，摆班接一接，送一送，就是他向化之处了。(二26,558)

极得老和尚在旁边，东鸣一口西砸一口，左勾一勾，右抱一抱。(初26,544)

<V-V着>の例も1例見える<sup>17</sup>。

<V-V着>

士人道：“惭愧！且让我躲一躲着。”(二34,696)

## 1. 10 V-V R

全1例、動詞の種類は1。補語は“浄”。

—洗

“洗一洗”に結果補語“浄”が接辞した形式であり、<V-V>を一まとまりの意味形式と見做していることが想定できる。“洗一洗净”は「已然」の文脈で用いられている<sup>18</sup>。例えば、

取些水来内外洗一洗净，抹干了，却把自己钱包行李都塞在龟壳里面，两头把绳一绊，却当了一个大皮箱子。(初1,17)(水を運んで来て周りや内側を一通りきれいに洗うと、水気をふき取り、自分の財布や荷物を亀の甲羅にすっぽり収め、両端を紐で縛って、旅用の大きな荷物入れとした。)

## 1. 11 V-V 过

全1例、動詞の種類は1。

—说

<sup>17</sup> 崔山佳(2011) pp269に、この例は挙げられていない。

<sup>18</sup> 汪国勝・付欣晴2013に従えば“短时反复”の意。



<VV过>の例とは異なり、文脈から判断するに、方向補語“过”は空間の移動ではなく、“说”とともに用いて抽象的な概念を表し、「踏み込んで話す」意に用いられていると考えられる。例えば、  
 馬氏道：“…我女流之辈，也没甚提掇你处，只要与你说一说过。”（初 15,298）（馬氏は「…女の私ごとき者がお役に立てるような事など、これといって特別ありはしませんが、ただあなた一言申し上げたいのです」と言った。）

### 1. 12 V—V开

全 1 例、動詞の種類は 1。

—擘

方向補語“开”を伴う例である。“擘”は“掰”の意。場面は、男が旅籠で大酒を食らい、豚足を両手でつかみ、肉の繊維に沿って左右に引き裂く内容。例えば、

连吃个三碗，又在桌上取过一盘猪蹄来，略擘一擘开，狼飡虎咽，吃个罄尽。（二 27,576）（碗に 3 杯飲み干すと、さらに机の上から豚足を 1 皿持って来て、さっと引き裂くと、むしゃむしゃかぶり付いて、もの見事に食べ尽くしてしまった。）

### 1. 13 V了—V

全 46 例、動詞の種類は 19。

—抱、啐、付、颠、划、噤、看、捞、捩、摸、呖、掐、认、数、想、相、笑、张、指

<V—V>と重複する動詞は“抱、看、摸、认、数、想、笑、张”の 8 種類であり、高い割合を示す。用例はすべて地の文に状況描写を目的として用いられており、会話文中の例は無い。例えば、

知观前行，吴氏又与太素抢手抢脚的暗中抱了一抱，又做了一个嘴，…。（初 17,351）

付了一付，面红耳热，颠倒讨不出价钱来。（初 1,20）

尚宝看了一眼，大惊道：“元来如此！”（初 21,446）

数了一数，又拿起班来说道：“适间讲过要留着自用，不得卖了。…”（初 1,13）

文若虚想了一想道：“见教得极是。而今却待怎样？”（初 1,22）

颜色庄严，毫不可犯，等闲不曾笑了一笑，说了一句没正经的话。（二 14,303）

“了”は動態助詞（所謂“了 1”）であり、“—V”は数量補語と見なされる。よって、数詞は“—”に限定されず、“几”の例も見られる。<V n V>の例も併せて示すことにする。例えば、

<V n V>

提一提看，且是沉重，把手捻两捻，累累块块，像是些金银器物之类。（初 12,242）

坐了更余，只听得外边推门响，又不敢重用力，或时把指头弹两弹。（初 17,343）

<V了 n V>

姚妈伸手过来，拽他的手出来，捻了两捻道：“…”（初 2,51）

…，连连数了三件，划了三划，那太湖石便似锥子凿成一个“川”字，…。（初 3,63）

爬起来，又把令牌敲了两敲，把门开了。（初 17,336）

七郎叫众人取冠带过来，穿着了，请母亲坐好，拜了四拜。(初 22,467)

任他抽了两抽，杜氏带恨的撇了两撇。(初 26,544)

摸了几摸，哈哈地笑了一声，睡下去了。(初 1,5)

“了”に替えて“得”、“上”の例が見られるのも《二拍》の特徴である。例えば、

<V得-V>

心下大喜，对蜚英道：“多谢小娘子好情记念，何处再会得一会便好。”(初 29,603)

娘子道：“…。只是难为了爱娘，又来一番，不曾会得一会去。”(二 15,333)

元来众人从来不认得钱氏，只早晨见得一见，也不认得真。(初 31,658)

无非打了火把，四下里照得一照，知他在何路上可以救得？(初 5,103)

赛儿随光将根竹杖头儿挂将下去，挂得一挂，这土就似虚的一般，脱将下去，…。(初 31,649)

后来被强不过，勉强略坐得一坐，推个事故走进房去，扑地把灯吹息，…。(初 2,43)

<V得 n V><sup>19</sup>

杜氏跳得两跳，已此呜呼了。(初 26,548)

<V上 n V><sup>20</sup>

那只鹿带了箭，急急跑到林中，跳上两跳，早把个小鹿生了出来。(二 13,277)

## 1. 14 V-V O

全 62 例、動詞の種類は 36。

—安、拜、尝、到、点、定、抖、拱、鼓、合、会、夹、见、较、看、冷、摸、拍、认、洒、赛、伸、试、算、探、吐、问、想、歇、叙、展、站、挣、整、助、做

用例の分布には偏りがあり、《初》の 17 例に対して《二》45 例は偏差が大きい。<V-V O>型の賓語に、人称を表す名詞(例えば“郎君”“王公”“他夫妻”“新郎”“邻舍”など)が用いられる例はあるが、人称代詞は現れず、<V O-V>と対称を成す。例えば、

…。胡生之妻也不下于你，怎生得设个法儿到一到手？(初 32,688)

孙军门问得明白，点一点头，笑道：…。(初 14,281)

士真道：“…。愿得召来帮我们鼓一鼓兴，可以尽欢。…”(初 30,634)

要钱时某也有，便就等某见一见郎君，做了此事，可使得否？(初 40,863)

李三道：“…。何不就骑着适才主公之马，拜一拜王公，岂不是妙？”(二 8,174)

刘老道：“既如此，我同你湖州去走一道，会一会他夫妻来。”(二 6,144)

龙香知道，赶到路上来对媒婆说：“我也要去看一看新郎。…”(二 9,209)

问一问邻舍，邻舍道：…。(二 38,787)

功夫伸一伸腰，挣一挣眼，叫声“奇怪！”走下床来。(二 20,450)

<sup>19</sup> 崔山佳(2011) pp203、pp209に、この例は指摘されていない。

<sup>20</sup> 崔山佳(2011) pp210に、この例は指摘されていない。

### 1. 15 V了—VO

全1例、動詞の種類は1。

—封

賓語は一般名詞“贺礼”。動態助詞“了”を接辞することにより、後置される“一封”の数量性が際立つ。例えば、

正说话间，阮太始也封了一封贺礼，到门叫喜。(初 12,249)

“了”に替えて“得”を用いる例も見られる。

<V得—VO>

便大怒发话道：“我略转得一转背，便把他跌了。…”。(初 20,431)

### 1. 16 把(将)OV—V

全14例、動詞の種類は11。

—扯、抖、看、捋、洒、试、梳、数、闻、用、展

<把(将)OVV>が5例であるのに対して、この型式が11例あることから、《二拍》では、<VV>型より<V—V>型が優位にあることの一斑が伺える。賓語には固有名詞(“任生”)の例も見られる。例えば、

把弓虚扯一扯，不放。(初 31,647)

汪秀才把柯陈大官人须髻捋一捋道：…。(二 27,589)

又把文字来鼻头边闻一闻道：…。(初 10,196)

智圆拣个好磁碗，把袖子展一展，亲手来递与杜氏。(初 26,540)

把手指数一数道：…。(二 24,529)

若非真仙，必是下不得口。好歹把这老头儿试一试试。(初 7,141)

太尉叫他把任生看一看，法师捏鬼道：“是个着邪的！”(二 34,714)

将适才所送银子来看一看，对侄儿高文明道：…。(二 26,570)

### 1. 17 VO—V

全36例、動詞の種類は18。

—拜、别、瞅、带、等、哄、回、见、浇、救、看、眠、耍、望、约、斋、张、做

賓語は1例(“望”の“里边”の例)を除いて、他はすべて人称、固有名詞(6例)及び人称代詞(28例)であり、《二拍》における<VO—V>の統語的特徴を明確に伺うことが出来る<sup>21</sup>。例えば、

毕竟有安顿我处，便再等他一等。(初 12,242)

故此大胆哄他一哄，不想果被小人瞒过，并无一个人认得出真假。(初 11,231)

今得了这个地步，还该去见他一见，才是忠厚。(初 21,451)

<sup>21</sup> “里边”を代詞と見做せば例外とはならない。

如何不与你同归来看我们一看？(初 33,710)

滕生便把眼瞅慧澄一瞅道：…。(初 6,117)

和尚道：“既然如此，可带小僧一带，舟金依例奉上。”(初 34,732)

…，不能勾见妻子一见，却是此心再不放懈。(二 6,134)

…，想道：“…。须趁此便打那边走一遭，看叔叔一看去。”(二 37,774)

…，只是舒头探脑，望里边一望，又退立了两步，踌躇不决。(二 6,135)

…，一日早起，走到房前，在壁缝中张他一张，看他在里面怎生光景。(二 24,524)

数詞が“两”になった例が1例見られる。賓語は固有名詞“俞氏”であり、動詞“拜”は、動作の反復を意味することからも、多様な数詞との結びつく可能性が高い。

<VO n V>

又拜妻俞氏两拜，托以老母幼子，…。(二 31,656)

## 1. 18 V了O—V

全2例、動詞の種類は1。

——看

賓語は2例とも固有名詞である。例えば、

主人看了文若虚一看，满面挣得通红，带了怒色，埋怨众人道…。(初 1,19)

仔细看了蒋震卿一看，这一惊可也不小！(初 12,244)

以下は数詞が“四”の例。

<V了O n V>

当下起身，插烛也似拜了徽商四拜。(二 15,337)

王世名即进去拜了母亲四拜，道：“从此不得再侍膝下了。”(二 31,656)

## 2 二音節動詞

### 2.1 VV

全13例、動詞の種類は12。

——保穰、打听、等待、动问、将息、看觑、商量、消停、演帐、遮盖、走动、作成  
用例は2例のみ地の文に用いられ、11例は会話文中の例である。例えば、

尼姑道：“妈妈，可也曾许个愿心保穰保穰么？”(初 34,728)

惜惜道：“…；只等他来了便好，你可时常到外边去打听打听。”(初 29,606)

邹老人道：“…，且宽心等待等待。”(初 11,215)

刘氏劝道：“…。辛苦了一夜，且自将息将息。”(初 11,220)

灿若只得又央及道：“娘子日来困倦，何不将息将息？只管独坐，是甚意思？”(初 16,319)

那亲眷道：“…，真有起死回生手段，离此有三十里路，何不接他来看觑看觑？”(初 11,221)

看他问得急切，回身来道：“…，或者另绊得头主，大家商量商量也好。”（初 40,862）

众人都笑道：“你看他那里演帐演帐，回来捣鬼，我们且落得吃酒。”（初 9,177）

吴大郎道：“奶奶作成作成，不敢有忘。”（初 2,41）

老嬷道：“…。只是那话，且消停消停，抹干了嘴边这些顽涎，再做计较。”（二 2,42）

塞罢，对着神道声诺道：“望菩萨遮盖遮盖！所罚之咒，不要作准。”（二 30,639）

…，虽体面上也叫个人来动问问，不曾有一家说来接他去的。（二 26,567）

有妻冶客年少，当垆沽酒，私下顺便结识几个倜傥的走动走动。（二 21,455）

## 2.2 VOV

全 2 例、動詞の種類は 2。

——带挈、撩拨

賓語は 2 例とも人称代詞“他”“我”であり、単音節動詞には見られない特徴の一つである。例えば、  
…，只是虽在孝堂中，相离咫尺，却分个内外，如何好大大撩拨他撩拨？（初 17,333）

沈将仕情极了道：“好哥哥！带挈我带挈！”（二 8,179）

## 2.3 V-V

全 31 例、動詞の種類は 25。

——安息、拜见、帮兴、比试、查点、察听、拆洗、出脱、带挈、点化、兑用、分派、光辉、回敬、  
计较、盘桓、倾销、扫拂、收拾、相伴、相会、消遣、歇息、整理、指引、驻足

7 例が地の文で用いられ、他の 23 例は会話文中における用例である。用例の総数から見ると、《初》の 9 例に対して、《二》は 22 例と倍する例が現れており、高い生産性を保っていることが指摘出来るとともに、二書の言語的相違点としても捉えることが出来る。例えば、

肚里思量道：“…，我为父的也不值得带挈一带挈？且看他是如何。”（初 13,264）

富翁道：“…。若肯不吝大教，拜迎到家中，点化一点化，便是生平愿足。”（初 18,367）

铁生进来，…，抬他下颏道：“我意欲把你与胡家的兑用一兑用何如？”（初 32,689）

又道：“是必求两位大娘同来光辉一光辉。”（初 16,311）

便对二客道：“两位不弃老拙，便请到寒舍里面盘桓一盘桓。…”（初 12,242）

六老手足无措，只得跪说道：“…，待将去倾销一倾销，且请回步，…”（初 13,265）

…，越客就走进屋内，叫仆童把竹床上扫拂一扫拂，坐了歇一歇气再走。（初 5,104）

庵主道：“…。不瞒安人说，全亏得有个把主儿相伴一相伴，…”（初 34,742）

献神已毕，就将福物收去，整理一整理，重新摆出来。（初 19,395）

郑、李二人别了沈将仕道：“一夜不睡，且各还寓所安息一安息，…”（二 8,183）

朝奉笑道：“…。你且两个去商量一商量，我明日将了银子，…”（二 28,595）

公差道：“老爹家里收拾一收拾，他等得不耐烦了。…”（二 26,569）

公差道：“老伯伯指引一指引，一路问来，说道在此间。…”（二 26,568）

宣教浑如做了一个大梦一般，闷闷不乐，且到丁惜惜家里消遣一消遣。(二 14,317)

收拾已完，身子困倦，揭开罗帐，待要歇息一歇息。(二 3,63)

## 2.4 VO-V

全3例、動詞の種類は3。

——拜望、瞅睃、撩拨

賓語は人称“妹子”及び人称代詞“你”“他”であり、単音節動詞の場合同様、文中での位置は統語的制約にかなっている。例えば、

知间识趣的朋友，怎没一个来瞅睃你一瞅睃？(初 15,298)

唐卿思量要大大撩拨他一撩拨，开了箱子取出一条白罗帕子来，…。(初 32,682)

翰林赶上去一把扯住道：“携带小兄到绣房中拜望妹子一拜望，何如？”(二 3,64)

## 3 嘗試型

以下に取り上げる型式に現れる動詞は、すべて単音節語である。

### 3.1 VV看

全16例、動詞の種類は8。

——秤、等、会、量、捻、认、试、说、问

いずれの例も<VV>に“看”が接辞し、「試みに」、「～してみる」などの意味(嘗試)を添え、動詞としての「見る」の意味は弱まっている。16例中、「问问看」が5例を占める。例えば、

文若虚接了银钱，手中等等看，约有两把重。(初 1,11)

巫娘子道：“…。既然爱我，你叫他到我家再会会看。果然人物好，…”(6,130)

暗中手捻捻看，却像是个衣衾之类，裹着甚东西。(初 9,177)

张大道：“且说说看。”(初 1,9)

婆子道：“…。前日江家有一所花园空着，要典与人，老身替你问问看，如何？”(初 2,41)

小娥答应道：“…。大官人去问问看就是。”(初 19,392)

…。沈一连声喊道：“…。我得一主横财在这里了，寻秤来与我秤秤看。”(二 36,741)

…。叫他再量量看，出得多少价钱，原只长得多少。(二 33,681)

…。指着那幅字纸道：“师父可认认看。”(二 1,17)

掀起衣服，把出腰牌来道：“你睁着驴眼，认认看！”(二 21,472)

…。也是死怕了儿女的心肠，见说着妇人之言，便做个不着，也要试试看。(二 32,662)

如霞道：“妙哉！妙哉！事不宜迟，且如法做起来试试看。”(二 34,701)

媒婆道：“且替你们说说看，只要事成后，谢我多些儿。”(二 15,334)

王吉道：“且到家问问看又处。”(二 5,109)

…，记得王府中的事，也把来问问看，果然即是这伙人。(二 5,122)

运使道：“你还到他衙中问问看。”(二 17,366)

### 3.2 VVO看

全5例、動詞の種類は4。

——推、问、捉、做

賓語は“财气”“后手”“此事”“门”など一般名詞が4例、人称に関わる“王家房里”が1例。

<VOV看>型は見られない。“捉后手”は「計算する」意。例えば、

…，文若虚伸手顺袋里摸了一个钱，扯他八卦问问财气看。(初 1,9)

过了三数年，觉道用得多了，捉捉后手看，已用过了一半有多了。(初 22,463)

我一时迷了，遣开了人，抱他上床要试他做做此事看。(初 34,742)

…，不听得里面一些声响，推推门看，又是里面关着的。(二 11,256)

心下想道：“且去问问王家房里看。”(二 21,464)

### 3.3 V-V看

全13例、動詞の種類は4。

——并、合、认、试、数、搜、算、捉、推、问、寻、捉、做

例えば、

…，把女儿八字与婚期，教他合一合看，怕有什么冲犯不宜。(初 5,100)

众人道：“…，分明是你藏匿过了，哄骗我们。既不在时，除非等我们搜一搜看。”(初 15,301)

提一提看，且是沉重，把手捻两捻，累累块块，像是些金银器物之类。(初 12,242)

尼姑道：“这多是命中带来的。请把姑娘八字与小尼推一推看。”(初 34,728)

等我去各处问一问看，是如此时，我还便了。(初 13,265)

再把自家的在臂上解下来，并一并看，分毫不差。(二 9,208)

员外叫讨了他八字，来与外甥合一合看。(二 9,206)

竹林道：“…，我且知会张家人来认一认看。若从来不是，又作计较。”(二 13,284)

蒋生不知何意，但自家心里也有些疑心，便打点依他所言，试一试试看，料也无碍。(二 29,619)

数一数看，四百锭多在，不曾动了一些。(二 21,457)

井中无水，用手一摸，果然一个人蹲倒在里面。推一推看，已是不动的了。(二 25,547)

妻子道：“…，既有地方的，便到那里去寻一寻看也好。”(二 36,757)

<把OV-V看>

又把年用迭起指头算一算看，笑道：…。(二 3,54)

### 3.4 试V-V看

全1例、動詞の種類は1。

—想

“试”は状況語として動詞を修飾する働きを担っている。例えば、

相士道：“…，做了些谋利之事，有负神明么？试想—想看。”(二 8,170)

《二拍》に<试V>型はあるが、<试V—V>型は見られない。他にも<试V看>、<试V着>、<试VV O>などの型式も少数ながら見られる点を指摘しておくことにする。

<试V>

试看往古来今，一部十六史中，多少英雄豪杰，该富的不得富，该贵的不得贵。(初 1,3)

武帝不信，乃对使者说：“试叫他发声来朕听。”(初 3,60)

父老道，“久等秀才不到，此间谢大姐先试写一番看看。…”(二 2,23)

太守又道：“…。试把与薛倩往来事情，实诉我知道。”(二 7,161)

试敲一下，其声泠然。(二 39,803)

<试V看>

李公佐道：“是何十二字？且写出来，我试猜看。”(初 19,389)

<试V着>

看官每试听着，有诗为证：…。(初 29,600)

<试VV O>

试问问左右邻人，才晓得赵家也是那里搬来的，住得不十分长久。(二 14,317)

### 3.5 V—VO看

全1例、動詞の種類は1。

—查

賓語は“踪迹”。例えば、

对张运使道：“…。我每可同了不肖子，亲到那地方去查—查踪迹看。”(二 17,367)

### 3.6 VO—V看

全1例、動詞の種類は1。

—试

賓語は人称代詞“他”であり、<VOV>、<VO—V>の例と合致する。例えば、

宣徽想道：“…。待我再试他—试看。”(初 9,181)

## 4 おわりに

単音節動詞における<VV> 177例と<V—V> 145例は1.2対1の比例を示し、《二拍》においては<VV>が優位であることをうかがわせるが、完了表現では<V了V> 0例、<V了—V> 46例という対照的な結果を踏まえると、表現形式による明確な相補分布の状況が明らかとなり、



平面的な比較は意味を成さない。

[表 2]

V V : 177	V-V : 145
V了V : 0	V了-V : 46

また、「賓語の位置」という視点から<V V>型と<V-V>型を比較してみよう。<V V>型の賓語の位置は後置される型式しか現れないが、<V-V>型では賓語の性質によって二通りの型式が見られる。

[表 3]

V V O : 97	V-V O : 62
V了V O : 0	V了-V O : 1
V O V : 0	V O-V : 36
V了O V : 0	V了O-V : 2
把 (将) O V V : 5	把 (将) O V-V : 14

<V-V>型内部における賓語の位置から用例数を比較すると、<V O-V>が<V-V O>の半数であることが示される。<V-V O>には「人称」に関わる名詞及び人称代詞が賓語として現れるのに対し、<V O-V>では賓語が「人称に関わる名詞、固有名詞」及び人称代詞に制約され、それ以外の一般名詞ほど頻出しなないことによりもたらされる結果であると見做すことが出来よう。<V O V>型を用いず、<V V O>型に統一され現代語タイプに切り替わっているのに対し、<V O-V>型という明代の古いタイプを留めて、非対称的状态を呈しているのは、大変興味深い。

[表 4]

V-V O : 62	V O-V : 35
V了-V O : 1	V了O-V : 2

中国語は「形態変化」に乏しい言語であるという認識が一般的であるが、動詞を中心とする重疊型式に限って言えば、動態助詞「了」を伴った場合には、<-V>の数量的意味が際立ち、分析的傾向を強めるために、形態変化の側面は極端に減じてしまうものの、<V (-) V+補語>、あるいは<V (-) V (O) +看>のように型式化される統合的な言語表現においては、極めて高い膠着語的性質を帯びることが指摘されよう。明末の白話文学言語、そして現代漢語方言の中に、このような言語事実は観察されるのである。

(2014.09.10)

参考文献

- 李田意 1967 《重印拍案驚奇原刊本序》、友聯出版社有限公司《拍案驚奇》上卷。  
—— 1980 《重印二刻拍案驚奇原刊本序》、友聯出版社有限公司《二刻拍案驚奇》下卷。  
章培恒 1985a 《影印《拍案驚奇》序》、上海古籍出版社《拍案驚奇》上卷。  
—— 1985b 《影印《二刻拍案驚奇》序》、上海古籍出版社《二刻拍案驚奇》上卷。  
崔山佳 2011 《近代汉语动词重叠专题研究》、四川出版集团·巴蜀书社。  
崔应贤 2011 《汉语动词重叠的历史考察》光明日报出版社。  
钱乃荣 1997 《上海话语法》、上海人民出版社。  
汪国胜·付欣晴 2013 《汉语方言的“动词重叠式+补语”结构》、《汉语学报》第 4 期。  
官田一郎 1970 「『動詞重ね式』と賓語」、大阪市立大学文学部紀要『人文研究』第 21 卷第 4 分冊中  
国語・中国文学、pp31-42。  
大島吉郎 2003 「動詞重疊型に関する通時的研究（五）——《醒世姻縁傳》を中心に」、大東文化大  
学『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第 41 号、pp201-223。  
—— 2006 「動詞重疊型に関する通時的研究（八）——「三言」を中心に」、大東文化大学『大東  
文化大学紀要〈人文科学〉』第 44 号、pp159-181。